

I 多様なサービスに関する知識と基本理解

①状態に応じた多様なサービス

◆身体・家族・環境全てを含めた利用者の状態と捉える

様々な困難を抱えた利用者を全人的に捉え、ICFの視点を活用した情報共有と情報整理も重要である。

- ・利用者とそれらを取りまく環境との間に出現する状態(現象)の悪循環から好循環への方向性を捉る。
- ・多様なサービスと**地域の社会資源**の吟味と精査をする
- ・利用者の**自己決定**とQOLの向上



多くの**社会資源**の中から適切な支援へ結び付けることが求められる。



継続支援

(1) 利用者・家族の状況を踏まえる

利用者や家族の状況をアセスメント情報だけで捉えず、利用者と家族の個別性と状況をふまえた対応をする。

様々な要素が相互作用し、利用者のニーズと問題現象が円環的引き起こされていることを理解する必要がある。

緊急時等への対応や提案ができるよう指導する視点が必要

(2) 地域特性を踏まえる

利用者の生活を支援することはその地域における生活を支援すること

- ・利用者の生活している地域とその変化を捉えつつ支援をする視点を持つこと
- ・生活だけでなく、暮らしの要素も大切にした個別支援

POINT

地域の力・地域資源の活用・サポート体制・新たなサービスの創生⇒**地域ケア会議**への参加(有効な手段の一つ)

④在宅と施設を見極めるための指導視点

- 1) 利用者本人が住みたい場所で生活していることが重要である。
- 2) 在宅(家族介護等)の限界も存在する。
- 3) どの時点で施設への切り替えを考えるのか
利用者と家族の意見について確認をする。
- 4) 利用者の意思決定について

『現状とこの先予測される状態』の検討と共有をする。

どこに住んでいても、その人にとって適切な医療・介護サービスが受けられる支援

- ・利用者が**どこで**生活を継続するのか家族が**どのように**支えるのかはとても大切な視点！
- ・常に問いながら支援できるよう指導しましょう。
- ・さまざまな施設やサービスがある中で、利用者の状態や家族等の状態、地域の状態によって選択するサービスが変わる。

利用者と家族、双方の状態を

客観的にアセスメント

⑤住まい方への指導視点

P445

(2) 最期を迎えるということ

介護支援専門員として利用者の生活支援をする
ということは



どこで最期をむかえるのか、誰と過ごしたいのか

自宅でも施設でも病院でも介護支援専門員として利用者・家族を支えることが大切

利用者及び家族の意向、地域の実情を踏まえながらの利用者支援

多職種連携・協働